

伊勢崎警察署協議会議事録
(令和6年度第3回定例会議)

開催日時	令和6年12月13日(金) 定例会議 午後3時30分から午後5時までの間		
開催場所	伊勢崎警察署幹部会議室		
出席者	委員 (定数15人)	森田会長 吉田委員 岩崎委員 根立委員 矢島委員 入澤委員 伊藤委員 星野委員 齋藤委員 新井委員 上村委員	計 11人
	警察	新井署長 石川副署長 飯塚警務官 小堀会計官 加藤刑事生活安全官 新井交通官 女屋警務課長	計 7人
	その他		

議 事 の 概 要

1 挨拶

(1) 会長挨拶

本日第3回の協議会となった。

本日は11月に発生した大きな事件のために会場が異なるほか、意見交換会も自重させていただく。

本日上毛新聞を拝見したところ、1面トップに県民会館が来年4月に休館に入る記事があり、その横欄に犯罪の形態が変化してきているという記事があった。

その記事は、ビッグコミックに連載していた漫画家の方と対談し、その内容を1ページの記事にしているものであった。

その中で匿名流動型犯罪いわゆるトクリュウに触れ、若い方がなぜそのような犯罪を行うのかについて語っていた。

この方は、先生や社会いわゆる大人との体験・経験が不足していると語っており、大変参考になった。

本日の会議も時間に限りがあるが、予め御意見・御質問をいただいている委員の方もいる。

協議会の進行に沿って説明させていただくので、本日もよろしくお願ひ申し上げます。

(2) 署長挨拶

本日はお忙しい中、第3回警察協議会に参加いただき感謝申し上げます。

また日頃から警察行政に携わり、御理解、御協力していただき感謝申し上げます。

先ほど会長がおっしゃったとおり、捜査本部の関係で本日の会場は異なっている。

当初、協議会自体を中止させていただくことも検討したが、このような時こそ様々な情報を提供し、皆様の御協力を得るのが協議会の趣旨と判断し、開催させていただいた。

冒頭に話したとおり、11月3日伊勢崎市上諏訪町地内において外国人の関係した殺

人事件が発生し、現在、捜査本部を立ち上げ、県警全体をあげて捜査している状況である。

また管内の情勢については、刑事生活安全官、交通官から説明申し上げるが、刑法犯認知件数は既に2, 200件を超え、死亡事故についても既に10名という非常に厳しい状況である。

12月15日から年末特別警戒が始まるが、住民の皆様が安全・安心に新年を迎えられるよう、署をあげて警戒を実施するので、引き続き御協力お願い申し上げる。

最後になるが、皆様方の御健勝と御活躍を祈念して挨拶とさせていただきます。

2 議事

(1) 管内概況説明（署長、刑事生活安全官、交通官説明）

- ア 治安情勢概況
- イ 刑法犯認知・検挙状況
- ウ 重要犯罪認知・検挙状況
- エ 窃盗犯認知・検挙状況
- オ 重要窃盗犯認知・検挙状況
- カ 特殊詐欺認知・検挙状況
- キ 少年犯罪検挙人員状況
- ク ストーカー・配偶者からの暴力事案対応状況
- ケ 児童虐待事案対応状況
- コ 暴力団犯罪検挙人員状況
- サ 来日外国人犯罪検挙人員状況
- シ 110番通報受理状況
- ス 警察安全相談受理状況
- セ 警察署別治安状況
- ソ 交通人身事故発生状況

(2) 意見・質疑・要望（○～委員、●～警察）

- 刑法犯認知件数について10年前の平成26年の数値と比べてそこまで増加しているとは認められないが、どのような評価をしているか〔質疑〕
- 様々な要素が考えられるが、犯罪抑止の活動が功を奏した結果、令和元年まで年々認知件数が減少してきたことや、犯罪態様の変化が考えられる。
以前は侵入盗や自動車盗などの窃盗が犯罪者に有益な収益となっており、暴力団とも関係して行われていたため窃盗犯が多かった。
現在は特殊詐欺が主流となり、ローリスクでハイリターンの犯罪態様が急速に広まったことが大きな要因として考えられる。
以前の窃盗犯は一人で1,000件近く犯行を犯す被疑者もいた。
また、皆様の犯罪抑止の活動の御協力が功を奏していることや防犯カメラやドライブレコーダーの普及も要因として挙げられる。〔回答〕
- 検挙率が100パーセントを超えるのはどういうことなのか〔質疑〕
- 検挙した被疑者に余罪が多数あった場合、その余罪が前年の認知だとしても検挙は前年に遡って計上をしないため、余罪が確認となり検挙の数が増えると100パーセントを超えることがある。〔回答〕
- 来日外国人犯罪について伊勢崎警察署管内はどの国籍の犯罪が多いのか。〔質疑〕
- ベトナム人が半数以上を占める。
内容はオーバーステイが多く、先日検挙した賭博事件についてもベトナム人被疑者であった。〔回答〕
- 普段通った事のない道で走っていたところ「この先、事故多発地帯です。ご注意ください

ださい。」とナビの音声案内があった。

案内のとおり、注意しながら走行し、特に問題はなかったが、伊勢崎市内と玉村町地内に”事故多発地帯”というのが何カ所かあるのか。

あるとすればその場所と原因なども教えていただきたい。〔質疑〕

- 警察庁は、全国の交通事故統計情報を公表しているが、このデータには交通事故発生場所の位置情報が含まれており、このデータを基にカーナビ制作業者等が一定の基準を設定し、この基準を超えた区域等を「交通事故多発地帯」としてカーナビに登録し、利用者がその地域に接近した時に、「この先、交通事故多発地帯です。」等のアナウンスをするように作成されている。

そのため、事故多発地帯というものの定義付けはカーナビの制作業者等が行っているものであり、警察として事故多発地帯というものは設定していない。

参考として、令和5年中の伊勢崎警察署管内の人身交通事故分布図を作成した。

この分布図は、1マスが500メートル×500メートルであり、このマスの中で交通事故が5件発生した場合は黄色、10件以上の場合には赤色となるように設定したものである。

つまり、赤色に近いマスの中ほど交通事故が多く発生している、というものになる。

各主要幹線道路が集まる箇所に事故が集中している。

交通事故の原因は、安全運転義務違反と呼ばれる、わき見運転、安全不確認、漫然運転などが全体の約5割を占めており、一時不停止や信号無視なども交通事故の主な原因となっている。〔回答〕

- 伊勢崎市では、11月3日に外国人の殺人事件が発生している。

また、全国的に、高齢者などを狙った侵入強盗が多くなってきている。

犯罪集団の手法が、若手を使い捨ての駒のようにして、荒い手段でもいいからお金を強奪するという手法にシフトしてきているような気がする。

このような、犯罪傾向の中で、犯罪の取締りや予防的な啓発等についての警察のお考えを教示いただきたい。〔質疑〕

- 南関東を中心として連続的に発生している強盗事件を管内で発生させないための対策として、伊勢崎警察署では警戒活動の強化、効果的な呼びかけを重点に取組を行っている。

現在まで当署管内での同事案の発生は無いが、当署としてはまず始めにレッドランプ警戒を重点的に行っている。

深夜帯に事件が発生していることを踏まえ、深夜帯における住宅地周辺の警戒活動を重点的に実施している。

警戒については、パトカーや捜査用車両のレッドランプを点灯させての警戒活動を行い、犯罪の抑止と地域住民の安心感の醸成に努めている。

2番目に積極的な声掛けについても実施している。

管内住民から寄せられた通報や情報提供を基に、住宅地をうろつくなど不審な動きをする車両や人物を発見した場合には、積極的に声掛けを行っている。

最近地域住民の方の警戒感も強まっており、不審者の通報も増え、警察も真摯に取組み、不審点があれば付近のレッドランプ警戒の強化や駐留警戒を行っている。

3番目として犯罪に加担しようとする者等に対する呼びかけを実施している。

犯罪に加担しようとする者の中には、自身や家族に危害が及ぶことを理由に犯罪に加担しようとする者がいることから、匿名通報のポスター等を活用し、本人や家族を保護等する用意があることを呼びかけている。

併せて、上州くん安全・安心メールを活用し、闇バイトや特殊詐欺に加担しないよう呼びかけるメールを配信している。

4番目として被害防止の呼びかけを行っている。

被害防止のポイントを記載したポスターを作成・掲示するとともに、上州くん安全・安心メールを活用して犯罪手口の周知、被害防止を呼びかけている。

その他の取組として、管内のタクシー会社やコンビニエンスストア等に協力を求め、不釣り合いな服装や長距離利用客、不自然な時間帯におけるガムテープ等の購入者等があった場合の通報を依頼している。〔回答〕

- 闇バイトについて、大人であれば明らかにアクセスしないであろうと思われるサイトにでも少年は応募をしてしまう。

新聞の記事にあった少年に関しては「別にこれの何が悪いのか」と申し立てており、識別がつかない状況であった。

この事実は非常に疑わしいが、少年事件に携わる中で、犯罪に対する敷居が低いように感じる。

そのような少年たちに対し、「このサイトは危険である」「このようなサイトにアクセスするとどうなるか」等と具体的なサイトの例示を挙げて説明をしてあげないと、その危険性について理解できないのではないか。〔質疑〕

- 生活安全課では管内の学校においてこの事案における教育を行っているが、その危険性について浸透していない状況もある。

サイトについては警察から警告を与えている。

Xなどについてはパトロールを実施し、該当するものについては警告を与えている。

〔回答〕

- 警告を与えているということは警察で「怪しいサイト」という認識をしているということであるから、その警告を出したサイトが具体的に「こういった形式のこういったもの」であるということ、少年たちにリアルに伝えていくことが効果的なのではないか。〔委員意見〕

- 闇バイトに関して犯罪の敷居が下がっているという話があったが、常識的に考えてその判断が出来る人間になってもらわなければ困る。

闇バイトと言われているが、これはバイトではない。

マスコミも闇バイトという言葉を使用し、警察も時としていわゆる闇バイトという言葉を使用している。

バイトという言葉は言葉の選び方が犯罪性を感じ、拒否を受けるような言葉ではないので、違う言葉の使用について議論はないのか。〔質疑〕

- 警察では、犯罪実行者募集情報としており犯罪に加担することがないよう啓発しているところである。

求人では「ホワイト案件」といった記載があり、逮捕された少年らの話ではこのホワイトという言葉にだまされてしまったという話がある。〔回答〕

- 犯罪につながるそういった求人を取り締まることはできないのか。

例えば「ホワイト案件」と書かれた求人を削除することはできないのか。〔質疑〕

- 県警のサイバーセンターでは、学生ボランティアと連携してサイバーパトロールを行い、いわゆる闇バイト募集情報や有害情報等をインターネットホットラインセンターへ通報し、削除要請をしている。〔回答〕

- 闇バイトの危険性等を周知するポスターなどはあるのか。〔質疑〕

- ポスターはある。

管内であれば伊勢崎商業高等学校に漫画を作成してもらい、周知している。〔回答〕

3 備考

- ・ 次回、定例会議は2月19日開催予定の警察署協議会会長会議以後の開催予定で詳細な日時については今後協議する。

- ・ 会議に先立ち石破茂内閣総理大臣による犯罪被害者等支援についてのビデオメッセージを視聴した。